

ぎょれんCSRレポート
GYOREN CSR REPORT 2011

編集方針

北海道ぎょれんのCSRの基本的な考え方や活動事例を開示し、ステークホルダーとのコミュニケーションを図るとともに、社会の一員として広くその期待に応え、社会からの信頼を得る目的で発行しています。特に、2011年に認証取得したISO14001に関しては、現在も引き続き実行し弊会全体で取り組んでいる事例などについて具体的に示しています。

対象読者

北海道ぎょれんにかかわる、漁業生産者や漁協をはじめ、各取引先、消費者、社会全体のあらゆるステークホルダーを対象読者としています。

報告期間

2011年度(2011年4月1日から12年3月31日)を対象にしています。ただし、最新の情報をお伝えするため12年4月以降の情報も一部掲載しています。

報告の範囲

北海道ぎょれんのCSR活動を報告しています。大きく「環境への取り組み」「環境ISO認証取得」「社会・文化貢献活動」「品質管理」「コンプライアンス」に章立てており、具体的取り組み事例について公開しています。

INDEX

目次

- 03 トップメッセージ
- 04 北海道ぎょれんの組織理念、役職員行動規範
- 05 環境貢献活動
- 07 環境ISO認証取得
- 09 食育活動、社会・文化貢献活動
- 11 品質管理
- 12 コンプライアンス
- 13 事業紹介
- 14 組織概要

北海道水産業の振興と発展に貢献し、 社会的責任を果たしていきます。



代表理事会長
櫻庭 武弘

北海道ぎょれんは、
道内の漁業協同組合の出資により組織された、
指導・経済事業を担う漁業協同組合連合会です。
私たちは、「組織理念」および「役職員行動規範」を基軸に、
各種事業を通じて北海道水産業の振興と発展に貢献し、
社会の一員として社会の期待に応え続けるため、
「企業の社会的責任(CSR)の実践」を
重要な経営課題と位置付けています。
また、植樹活動をはじめとした環境保全対策に長年取り組み、
全事業所を対象としたISO14001の認証取得や食育活動など、
様々な分野において社会的な責任を果たしてきました。
この「CSRレポート」が、私どもへの
ご理解をより深めていただく一助となれば幸いです。

中期的 事業推進方向の 三本柱

グローバル(国際化)戦略の強化

人づくり・物づくり・ネットワークづくり

企業の社会的責任(CSR)の実践



組織理念

1. 私たちは、漁業協同組合連合会として、協同組合理念に基づき、北海道水産業の振興と発展に貢献します。
2. 私たちは、我が国の水産食料供給産業に携わるものとして、顧客第一を心がけ、誠心誠意、安全・安心な水産物の安定供給に努めます。
3. 私たちは、社会の一員として、社会への貢献と責任を果たします。

役職員行動規範

この行動規範は、本会が社会の一員として、広く社会に認識され、事業活動が信頼されるものとなるよう、役職員の日々の行動のあり方を明示したものです。本会役職員一人ひとりが、この規範を遵守して行動していくこととします。

1. 事業
 - (1) 本会の組織理念・使命を全うするため、永続的に事業活動ができるよう健全な経営を維持すると同時に、各種事業活動を通じて生産者・漁協とともに北海道水産業の振興と発展に貢献します。
 - (2) 安全・安心で優れた品質の製品とサービスを安定的に提供し、消費者・取引先の皆様の期待と信頼に応えます。
2. 法令

全ての業務において、法令を遵守するとともに、本会が定めた定款・規約・諸規程に則り、適正に職務を遂行し、本会にかかわるすべての人々から信頼される行動をとります。
3. 倫理
 - (1) あらゆる人々の基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせを行いません。
 - (2) 社会の秩序や市民生活の安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を持たず、その脅威に屈しません。
4. 職場

本会の組織理念・使命の達成に向かって、それぞれが組織の一員として大切な役割を担うとともに、個々の人格を尊重しながら力を合わせ、チームワークを発揮して事業活動を行います。
5. 社会貢献

「北海道の豊かな海」という自然環境の恩恵を享受している北海道水産業界のリーダーとして、環境基本理念・環境方針に基づき環境保全の役割を果たすとともに、社会の一員として積極的に社会貢献活動を行います。



国際協同組合年

【スローガン】
Co-operative enterprises build a better world
協同組合がよりよい社会を築きます

国連は2012年を国際協同組合年とすることを宣言しました。国際協同組合年とは、協同組合の社会経済開発、世界の食料安全保障や金融危機への取り組みに期待し、その活動を広めることを目指したものです。

環境貢献活動

本道漁業は、「北海道の恵み豊かな海」という地球の自然環境のなかで営まれています。

私たち役員一人ひとりが、「環境基本理念」と「環境方針」に基づき、今後とも環境に配慮した事業活動を行い、社会に貢献する組織であり続けたいと考えています。

環境基本理念

北海道ぎょれんは、販売事業・購買事業・指導事業等を通じて、会員及びその組合員とともに、環境に配慮した事業活動を行い、社会的使命とコンプライアンスを重視し、本道漁業の振興発展と漁業経営の安定化のため、かけがえのない恵み豊かな自然環境の存続に取り組みます。

環境方針

1. 北海道ぎょれんは、環境基本理念に則り、海からの贈り物である海産物の永続的な確保を実現させるために、環境負荷の抑制、再利用、再資源化に取り組みます。
1. 北海道ぎょれんは、環境目標を設定し達成に向けて組織的活動を行うとともに、継続的改善を実施し、汚染の予防に努めます。
1. 北海道ぎょれんは、環境に配慮した水産物の生産・流通に取り組むために全般的に環境方針を周知徹底します。
1. 北海道ぎょれんは、省エネルギーに向けて、紙類の使用制限・再利用などを通じ紙ごみ削減に取り組みます。
1. 北海道ぎょれんは、私たちの海を守るための植樹運動の取り組みを含め、内外に必要な環境情報の公開と発信に努めます。
1. 北海道ぎょれんは、関連する環境法規則等を遵守します。

平成23年8月19日 北海道漁業協同組合連合会
代表理事 会長 櫻庭 武弘

お魚殖やす植樹活動

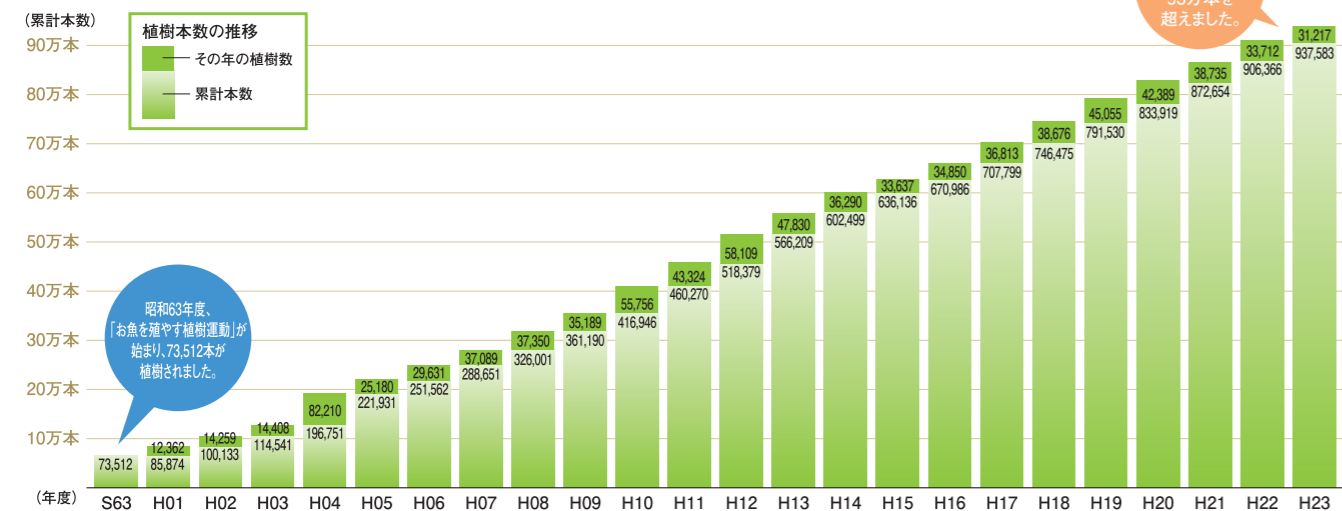
豊かな森は降り注ぐ雨を蓄え、養分豊富な地下水として川へそそぎます。その水は海へと流れ魚たちに栄養を与え、豊かな海の恵みを育みます。

お魚殖やす植樹運動は、「100年かけて100年前の自然の浜を」をスローガンに、昭和63年から北海道漁協女性部連絡協議会が始めました。今や多く

の漁協女性部が植樹活動に取り組み、これまでに90万本以上を植樹してきました。この運動は、北海道の「食の環境を守る協働の森林づくり促進事業」、またコープさっぽろの「コープ未来(あした)の森づくり基金」のご支援もいただき、推進しています。



「お魚殖やす植樹運動」の実績



森から海へ、そして再び森へ。 自然の大きな循環とともに。

森

雨水を受けとめ、浄化し貯えてから徐々に川に流します。



枝葉は直射日光をさえぎり、水温の上昇を防いでいます。

海から川へ遡上するサケは海の栄養を森へ運ぶ役目を担っています。

ホツチャレ(川に遡上したサケ)は熊などの森の動物に食べられ、そのフンが森の栄養になります。



林から陸生昆虫などが川に落ち、魚の餌になります。

落葉、枯葉は水生昆虫や魚の餌になります。

水生昆虫は羽化し河畔林で生活し、やがて川へ戻り魚の餌になります。

川

森から栄養豊かな水を海へと運び、森と海をつなぎます。



海

魚たちを豊かに育み、水蒸気が雨や雪となり再び陸地に戻ります。



農林水産大臣賞・国際森林年特別賞を受賞

「国際森林年」にあたる平成23年10月、「第2回いきものにぎわい企業活動コンテスト」において、道女性連が農林水産大臣賞および国際森林特別賞を受賞しました。23年間にわたる特色ある森づくり活動の実績が認められました。



省エネ型漁業の推進



国の支援事業を活用し、省エネ型漁業への転換をサポートしています。この活動によって、さんま漁業の集魚灯のLEDへの転換、燃費効率の高い船外機の導入等が数多く進められ、使用燃料削減などの効果が表れています。

干潟の整備による環境・生態系保全活動

近年、藻場・干潟が持つ水産資源の保護や培養、水質浄化などの機能が低下していることを受け、弊会が事務局となり、国の補助事業を利用して、道内の干潟の整備を実施しています。



環境ISO認証取得

地球の自然環境からの恵みに恩恵を受けている弊社にとって、環境保全のための環境負荷削減への取り組みは、企業の社会的責任として、また北海道水産業を牽引していく為に必要不可欠な要素となっています。

そこで弊社では平成23年度、環境ISO認証を販売・購買・指導事業を実施する事業所で取得することを目標に掲げ、平成23年10月、水産系連合会としては初となるISO14001を認証取得しました。これを機に、より一層環境負荷低減に向けて取り組んでいます。平成23年度は環境マネジメントシステム(PDCAサイクル)に準拠したマニュアル・手順書に基づき、年間計画を策定し、この達成に向けて従業員一人ひとりが業務推進にあたりました。



【ISO14001審査登録証・審査登録付属書】



【EMS認証マーク】

今年度の目標・目標達成率

平成23年度 環境ISO14001 目標・目標達成率 (平成22年度比)

コピー用紙の削減

3%削減(10万枚削減) ➡ **15.4%削減**(74万枚削減)

電気使用量の節減

15%削減(12万kWh削減) ➡ **14.4%削減**(11万kWh削減)

弊社保有車(48台)ガソリン節減

5%削減(4千ℓ削減) ➡ **6.1%削減**(7.3千ℓ削減)

植樹活動

- ① お魚殖やす植樹運動 苗木助成支援
年間1万5千本 ➡ **年間1万4千本**
- ② 海を守るふーどの森づくり(野付・パルシステム)
年間1百本 ➡ **年間1百本**
- ③ 「魚つきの森」をつくるための植樹活動(枝幸・東都生協)
年間2千5百本 ➡ **年間1千本**

ISO14001とは

国際標準化機構(ISO)が発行する、組織活動、製品・サービス等が環境に与える負荷を、継続的に低減・防止していくための仕組み(環境マネジメントシステム)の環境規格です。継続的に改善していくPDCAサイクルを構築する中で、有害な環境影響(環境への負荷)の低減及び有益な環境影響の増大、組織の経営改善、環境経営が期待されます。

※平成24年10月末日現在
適合組織数19,416件(うち道内企業は390件)



具体的な取組内容

事務所内の電灯の間引き・消灯・清掃



事務所内の電灯の間引きをし、消灯を徹底しています。また、定期的に全事業所で一斉清掃を実施しています。

二酸化炭素の排出削減

自動車を運転する際は、アイドリングストップや計画的な運転意識の徹底を図っています。また、耐用年数が経過した車両から順次、ハイブリットカーなどの低公害に切り替えています。

Reduce

コピー用紙の発生抑制

電子文書化ソフトを導入し、紙への印刷やコピーを極力減らすペーパーレス化を推進しています。

Reuse

コピー用紙の再利用



全ての使用済みコピー用紙を回収するリサイクルボックスを全事務所に設置しコピー用紙やメモ用紙などに再利用しています。

3R

Recycle

廃棄物の再資源化

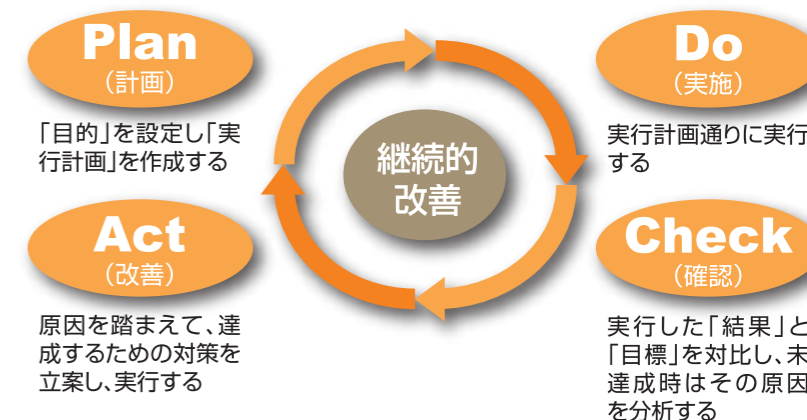
本所では、平成23年にリサイクル業者と契約し、事務所で生じる使用済コピー用紙・ダンボール・シュレッダーゴミ・新聞などの紙類を全て再資源化しています。

環境教育の実施

外部講師による環境ISO14001に関する研修を定期的開催し、「環境に配慮する人づくり」に力を入れています。



環境マネジメントシステム(PDCAサイクル)



食育活動、社会・文化貢献活動

漁師さんの出前授業

平成17年から始まった「漁師さんの出前授業」は、現役の若手漁師さんが札幌市内の小学校を訪れ、直接子ども達と触れ合いながら授業をしています。子ども達は、漁師さんの仕事について聞き、実際に沖で使っている道具に触わり、ロープワークや網直しなどの漁師さんの技を見て、五感をフルに活用しながら漁業を勉強しています。

平成23年度の開催実績

開催回	開催日	開催場所	対象児童
第12回	6月22日(水)	札幌市立北九条小学校	5年生 54名
第13回	2月10日(金)	札幌市立資生館小学校	4年生 113名



浜のおかあさん料理教室

魚食普及と魚介類の消費拡大を目指して平成3年に始まった「浜のおかあさん料理教室」は、平成21年に通算100回を数え、参加者が延べ5千名を超えました。子どもから大人まで幅広い年齢層の方に参加していただき、浜のおかあさんから、魚のさばき方やオリジナル浜料理のレシピを教わりながら、一緒に楽しく調理しています。

平成23年度の開催実績

開催回	開催日開催場所	担当地区	受講者	メニュー
第101回	9月3日(土) 札幌エルプラザ	根室地区	札幌市学校給食栄養士会・札幌消費者協会31名	●海ライス ●ホタテ餃子のチリソース ●秋鮭のあら汁
第102回	9月17日(土) 札幌市立平岸西小学校	北見地区	親子30名	●ホタテのチリソース ●鮭ザンギのあんかけ ●秋鮭の三平汁
第103回	9月21日(水) 札幌エルプラザ	釧路地区	コープさっぽろ札幌地区組合員30名	●鮭のちらし寿司 ●サメガレイのチャンチャ焼き ●たこザンギ●秋鮭のあら汁
第104回	10月2日(日) 立命館慶祥高校	宗谷地区	高校1~3年生32名	●ホタテのはさみフライ ●たこハンバーグ ●ホッケのチャンチャン焼き ●秋鮭の三平汁
第105回	10月15日(土) 藤女子中学校・高等学校	留萌地区	中学2~高校2年生30名	●海の恵みいっぱいキムチ鍋 ●豆腐の甘えびとろみ煮 ●ホタテ・コンブ飯 ●鮭の唐揚げサラダ



北海道ぎょれん×コンサドーレ札幌 食育&サッカー教室



平成23年からコンサドーレ札幌と協力して、体力づくりと健康増進のため、小学生の子どもたちと保護者を対象とした食育&サッカー教室を開催しています。

幼稚園、小学校での昆布食育教室



幼稚園向けフリーペーパー「あんふあん」とタイアップした昆布食育料理教室を、全国24か所の幼稚園で園児・保護者計2400名対象に開催しました。また、小学校での食育活動も全国15か所約6800名を対象に実施しました。

札幌交響楽団への寄付

札幌交響楽団は平成23年に創立50周年を迎え、北海道で唯一のプロ・オーケストラとして道民に長く親しまれています。本会では、札幌の「パトローネージュ会員」として寄付を行い、楽団運営をサポートしています。



佐藤雅英撮影

札幌市児童福祉施設への寄贈

札幌市内の児童福祉関連施設15箇所に水産物の寄贈を行っています。この活動は平成23年で19回目を迎え、北海道の美味しい水産物を子供たちに届けています。



品質管理

生鮮食品の安全・安心を目指して

放射性物質検査

東日本大震災に伴う福島第一原発事故後、消費者や販売先からの放射性物質の検査体制・検査結果の問合せが増えたため、平成23年4月から、行政でモニタリング検査を行わない7魚種(あさり、ほたて、かれい、えぞばい、ひらめ、柳たこ、秋鮭)の部位別の放射性物質検査を、弊会が外部検査機関に委託して実施しました。9月以降は、回遊性魚種を水産庁、沿岸魚種を北海道、弊会が取扱う加工製品を弊会で分担して検査し、行政機関と協議を行える協力体制を構築しています。

※行政の放射性物質検査の結果は、北海道のホームページで公開しています。

貝毒検査及びノロウイルス検査

ほたて貝・ほっき貝・かき等の二枚貝類は、北海道と弊会が窓口となり海域単位の貝毒行政検査を実施しています。加えてほたて貝は、鮮貝を「北海道ほたて漁業振興協会」会員の各漁協、製品を「北海道ほたて流通食品協会」会員の各加工業者が自主検査し、弊会が発行する「ほたて安全証紙」を貼付して流通させています。貝毒発生時には、弊会が道と協議の上、規制や解除を行います。かきは、道内かき生産漁協で構成する「北海道かき生産漁協連絡協議会」と道、弊会が、行政検査の他に海域毎のノロウイルス自主検査を週1回行っています。

※かき「ノロウイルス・貝毒検査結果」は、弊会ホームページで公開しています。

水産加工食品の安全・安心を目指して

水産加工製品に関する衛生管理のレベルアップを目指す

弊会の品質管理部が主体となり、水産加工を行う生産工場へ点検・指導を行っています。製品の安全性確保に向け微生物の自主検査体制構築を指導し、製造工程や製品の点検審査を行っています(平成23年度は109工場で実施)。また、グループ工場には、より一層の衛生管理の向上を目指し、ISOやHACCPの各認証制度の取得や法令順守、各社の自主基準に基づく適正な運用・管理の徹底を指導しています。

■水産加工を行う生産工場への点検・指導件数

平成24年3月末現在

グループ工場	漁協工場	一般工場	合計
14	27	68	109

※ぎょれんグループ工場では年2回の点検を実施

■ぎょれんグループ工場認証取得状況

平成24年3月末現在

会社名	認証内容	適用
ぎょれん総合食品	ISO22000:2005	本社工場(フライ製品)
	大日本水産会HACCP	本社工場(フライ製品)
	大日本水産会HACCP	札幌工場(魚卵製品)
ぎょれん道東食品	大日本水産会HACCP	本社工場(漬魚製品)
	大日本水産会HACCP	厚岸工場(さんま製品)
ぎょれん鹿島食品C	大日本水産会HACCP	(醤油・塩いくら製品)
ぎょれん室蘭食品	北海道HACCP段階7	(ボイルほたて貝柱製品)

食品の表示方法一元化に向けた対応

食品産業センターは、食品回収の約60%が表示ミス(賞味期限や成分)であると発表しています。弊会は、一括表示や商品仕様書の効率的で合理的管理を目指しデータベースソフトウェア(e-BASE)による一元管理をしています。また、平成21年から食品表示の知識を保有する「食品表示診断士」を養成し、有資格者は平成23年3月末で26名になりました。

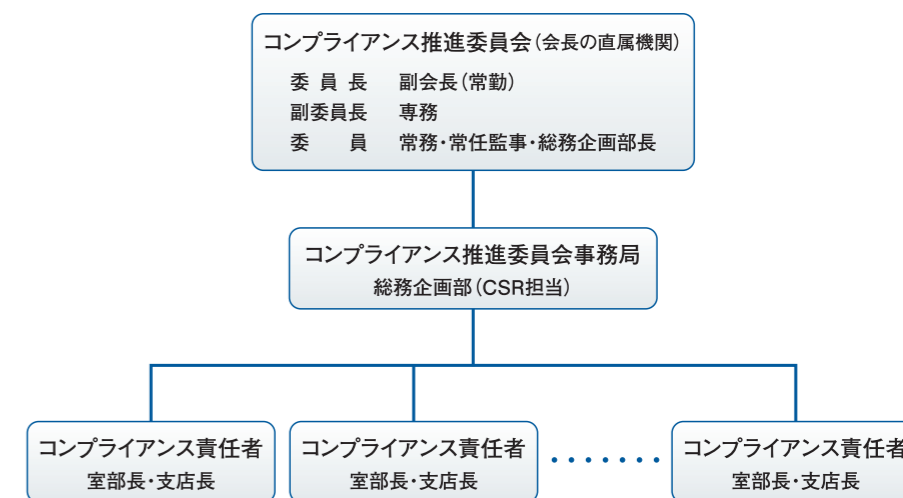
消費者庁では現在、JAS法・食品衛生法など消費者に複雑でわかりにくい表示を集約するため、「食品の表示方法一元化」に向けた取り組みを開始しています。品質管理部ではグループ各社に対し法令改正等の情報提供や注意喚起に努めています。

コンプライアンス

組織体制

弊会では、CSR活動の基盤であるコンプライアンスを、経営上の重要課題と位置づけ、その態勢強化を進めています。経営の客観性・透明性を確保し、法令に関する管理・監督をするために、会長の直属機関のコンプライアンス推進委員会を設置しているほか、コンプライアンス規程の制定による遵法意識の更なる定着化、法令等に関するリスクの未然防止を目的とした相談窓口体制の整備など、コンプライアンス意識を常に持った事業推進により、ステークホルダーの皆様との信頼をより一層深めてまいります。

コンプライアンス推進体制図



教育研修・啓蒙活動

eラーニング

日々の業務推進に必要な不可欠なCSR・コンプライアンスなど職務に関連する専門的知識の習得を促進するためにeラーニングを導入し、全職員が取り組んでいます。



コンプライアンス研修

職員一人ひとりの法令遵守意識をより高めることを目的に、顧問弁護士によるコンプライアンス研修を実施しています。



人材育成3ヵ年計画

弊会では、中期的事業方向の三本柱に「人づくり」を掲げ、具体的な人材育成3ヵ年計画を平成23年度に策定しました。人材育成は一朝一夕に達成できる課題ではないため、長期的な視点に立って、各種事業に貢献できる職員を育成し続けていきたいと考えています。



事業紹介

漁協系統組織との連携強化により、販売・購買・指導の三事業を柱に、安全・安心な道産水産物の安定供給と良質廉価な漁業関連資材の供給、漁政指導活動の実施を通じて、北海道漁業の発展と振興に努めています。



販売事業

全道の漁協と連携して、漁協市場の共同販売（共販）システムを構築し、経営の効率化と健全化に取り組んでいます。また、様々な流通対策を実施し、円滑な道産水産物の流通確保に努めるとともに産地と消費地の販売ネットワーク網により、国内はもとより海外へ魚介類や水産加工品をお届けしています。



購買事業

漁業にとって必要不可欠な漁船の動力となる漁業用燃油（A重油・軽油）等の石油製品を安定的に供給し、価格の高騰を抑える対策を行っています。また、漁業用の資材は良質廉価な製品を海外から直接輸入して供給し、浜からの要望を活かしたぎょれんブランド資材の開発にも取り組んでいます。



指導事業

北海道漁業の振興に不可欠な各種水産施策の実現に向けて、全道漁協組織を挙げた活動を推進するとともに、漁業経営の基盤強化を目指して漁業者や漁協役職員の指導教育に力を入れています。また豊かな水産資源を守るための海や河川環境対策、植樹活動などにも積極的に取り組んでいます。

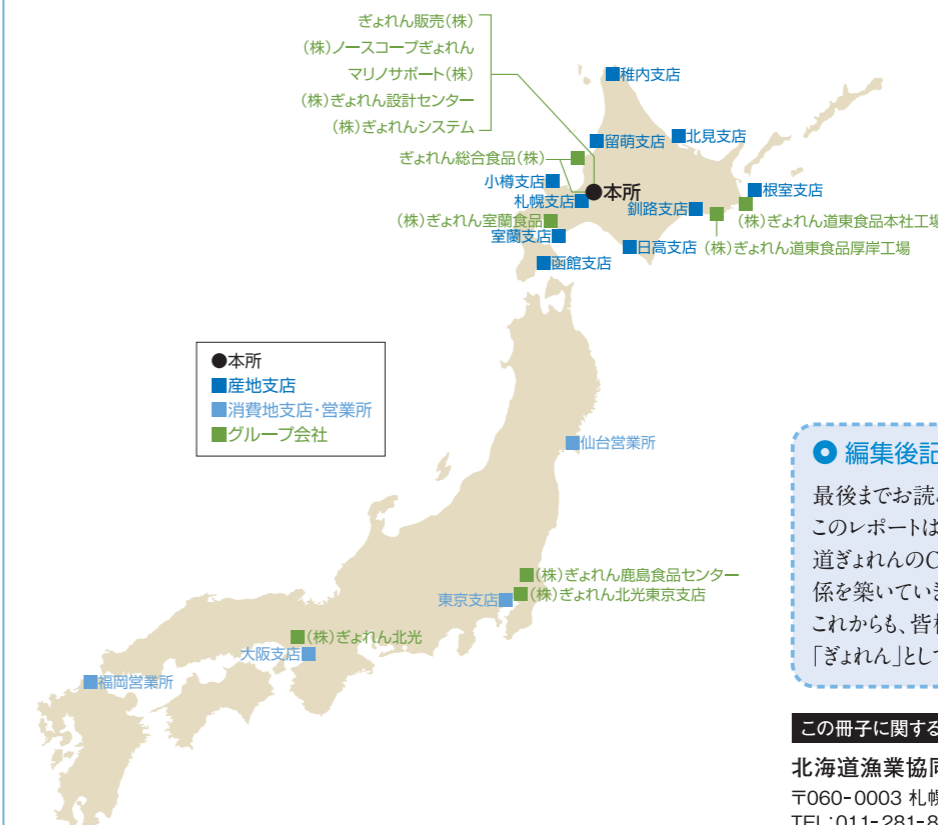


組織概要



水産ビル

名称	北海道漁業協同組合連合会
設立	昭和24年(1949年)8月
本所	札幌市中央区北3条西7丁目1番地
出資金	50億3,842万円(平成24年4月1日現在)
取扱高	2,945億円(平成23年度)
会員数	81会員(平成24年4月1日現在)
職員数	338名(平成24年4月1日現在)
事業所	小樽支店・函館支店・室蘭支店・日高支店・釧路支店・根室支店 北見支店・稚内支店・留萌支店・札幌支店 東京支店・仙台営業所・大阪支店・福岡営業所
関連会社	ぎょれん販売(株) 株ぎょれん北光 株ぎょれん鹿島食品センター【HACCP認証取得】 株ノースコープぎょれん 株ぎょれん室蘭食品【北海道HACCP認証取得】 株ぎょれん道東食品【HACCP認証取得】 ぎょれん総合食品(株)【ISO22000、HACCP認証取得】 マリノサポート(株) 株ぎょれん設計センター 株ぎょれんシステム【ISO27001認証取得】



編集後記

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。このレポートは、すべてのステークホルダーの皆様へ、北海道ぎょれんのCSR活動についてご理解いただき、より良い関係を築いていきたいという想いを込めて作成しました。これからも、皆様と真摯に向き合い、社会的な使命を果たす「ぎょれん」としてCSR活動を続けていきたいと考えています。

この冊子に関する連絡先

北海道漁業協同組合連合会 総務企画部 (CSR担当)
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地
TEL:011-281-8575 FAX:011-242-3543

